

以前から懸案となっていた、名古屋市立保育短期大学（名保短）跡地（市北西部：平子町地内）を尾張旭市が3億円で購入することになりそうです。

名保短が97年2月に廃校となった後、長らく利用されていなかった跡地について、8月に名古屋市から申し出があり、その内容は約7.7ヘクタールの土地を、現状のまま（建物がたっただまま）3億円です。建物の取り壊しに約2億円と見込まれています。

党市議団の見解は
①市の財政状況は単年度において3億円程度の支出は問題無いこと。

②取り壊し費用については、市の説明から2億あれば足りるであろうこと。

③今後の施設の老朽化を考えると、その代替用地として必要性があることです。

市議会では、この件を議論するために特別委員会を設置していますが、11月5日に開かれた委員会で

●市の財政状況

●名古屋市が見積もった2億円という取り壊し費用の妥当性

●将来的に何に使うこ

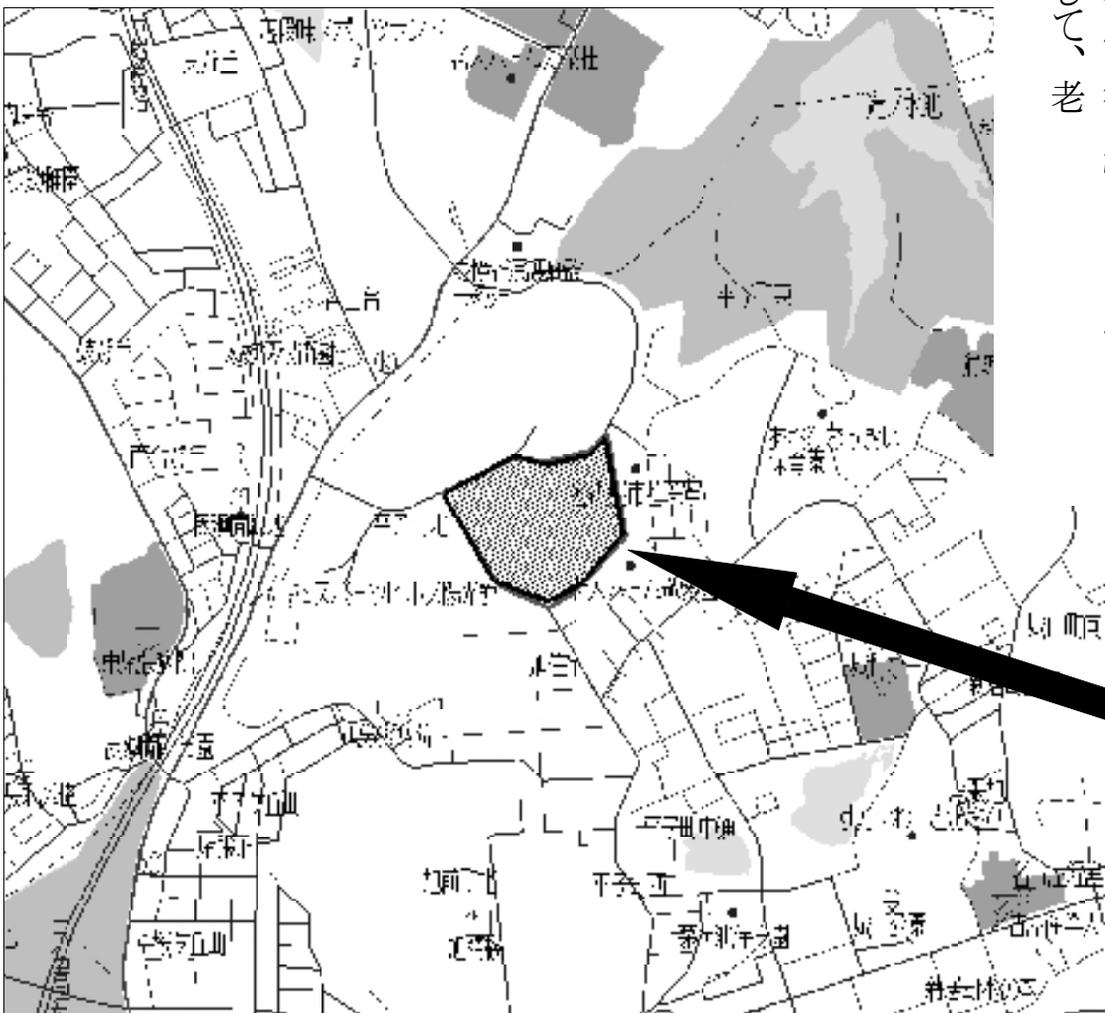


主な市施設の耐用年数

施設名	竣工年	耐用年数残
市民会館	S48年	13年
勤労青少年ホーム(南館)	S41年	6年
勤労青少年ホーム(北館)	S54年	19年
中央公民館	S59年	24年
図書館	S55年	20年
総合体育館	S53年	15年
文化会館	S56年	12年

現在の山下議員（み）のみ反対していますが、その主な理由は
①市の財政状況
②公共施設用地として位置が適さない。
③利用計画がない。
というものです。

市資料から残り耐用年数25年以下のものを抜粋。
耐用年数残は減価償却資産の耐用年数等に関する省令による。
使えるものは延命して使えば良い。



名古屋市立
保育短期大学跡地

建物の延命を行ったとしても施設をいつ更新するかが課題になってきます。
いずれ狭い市域の中でどこに土地を確保できるか？が問題になります。山下議員の指摘する位置的な問題はありますが、当面、緑地保全と建物を造らない方法での利用を行いなから、そして、老朽施設の延命措置もすっかり行いながら、落ち着いて検討してゆけば良いと思います。

党市議団は、西側道路を早期に使用できるようにすること。2億円と見込まれた取り壊し費用について、分離し費用について、分離し費用を回すことも主張しています。